

# 情報委員会における今後の主な検討課題（案）

資料1  
情報委員会（第17回）  
令和3年6月3日

## 【情報委員会において検討する課題】

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた情報分野における研究開発等に関する戦略

- ・研究のDXとそれを支える学術情報基盤のあり方
- ・情報分野の研究開発課題
- ・教育その他の分野との連携
- ・人材（研究人材、情報基盤を担う人材等）の育成・確保

等

- ・セキュリティ・トラスト、カーボンニュートラル、国際等の視点
- ・データ戦略、半導体戦略、beyond 5Gへの取組との整合性の確保・連携

等

## 【下部組織または外部の組織等と連携して検討する課題】

- 次世代計算基盤に関する検討  
→ 次世代計算基盤検討部会で検討
- 次世代ネットワーク基盤に関する検討
  - ・SINETの活用拡大の方向性（初等中等教育における活用等）
- 研究データ・オープンサイエンスの推進等に関する検討
  - ・研究におけるデータの利活用に関するルールの整理・整備
  - ・学術情報の流通の在り方（大学図書館のDXの推進方策）

等

# 委員からの主なコメント

---

## 【カーボンニュートラル目標】

- ・2050年のカーボンニュートラルの目標達成は、目的だけでなく研究開発課題としても重要。

## 【人材育成】

- ・初等中等段階における情報分野の教員の強化に向けて、大学の情報学の教員の貢献が重要。
- ・研究を担う人材だけでなく、情報基盤の整備・運用を担う人材に関する評価やキャリアパスの検討が重要。

## 【イノベーション創出】

- ・イノベーション創出との視点も重視して、社会を巻き込んでいくことが重要。
- ・デジタルツインを活用し、イノベーション創出のための試行錯誤を迅速かつ大量に行える環境を構築することが重要。こうした環境によって、イノベーション創出に係る情報やデータの継承と有効活用が容易となる。

## 【データ利活用】

- ・緊急時対応への貢献も視野に、平常時より有用データを蓄積することが重要。  
(人々の行動を可視化できる社会科学的なデータ等)
- ・DFFTの枠組みを実質化するため、データの付加価値を生み出し、社会で好循環する仕組みの構築やそれを技術的に支える取組が重要。データオーナーシップの問題やデータガバナンスのあり方の検討も課題。

## 【研究開発課題の検討】

- ・日本の勝ち筋に加え、比較優位がないものでも日本が保持すべき技術は検討すべき。

## 【研究のD Xの推進方策】

- ・大学、国研等の業務改革・業務のD Xも含めた全体的な検討が必要。
- ・研究データ基盤の構築のみならず、その運用のための体制やシステムの構築が重要。